

ふくの若葉病院
栄養サポート・褥瘡対策委員会の
活動報告



委員会の新体制について

今年度より、栄養サポート委員会と褥瘡対策委員会が統合され、「**栄養サポート・褥瘡対策委員会**」として新たにスタートいたしました。

統合による3つのメリット

- 1 ケアを一体化して、より切れ目のない支援を実現します
- 2 栄養管理と褥瘡の予防・ケアを同時にサポートします。
- 3 相談窓口を一本化し、患者様にとって分かりやすくなりました



より質の高い医療の提供を目指します

私たちの役割と統合の理由

私たちの役割

- ✓ 栄養の評価と、食べやすい食事のサポートを行います
- ✓ 褥瘡ができないように予防し、ケアします。
- ✓ 定期的にお部屋を訪問し、褥瘡や体の状態をチェックします。



なぜ一つに？

-  栄養状態が良いほど、褥瘡ができにくく、治りやすくなります。
-  逆に、栄養不足の状態では褥瘡の治りが遅くなってしまいます。
-  一つのチームになることで、より素早く連携し対応できます

「**栄養**」と「**褥瘡のケア**」は深く関係しています。

活動内容とチーム体制

主な活動内容

-  食事の評価と、栄養プランの作成・見直し
-  褥瘡の予防(体の向きを変える、マットレス選びなど)
-  褥瘡の処置とケア
-  職員への勉強会・研修の実施

チーム体制

様々な専門家が協力してサポートします



医師



看護職員



管理栄養士



薬剤師



リハビリ専門職



介護職員



チームで患者様を支えます

当院の取り組み 症例紹介：栄養管理と褥瘡ケアの実際

経過・ケア写真



仙骨部に圧迫やズレによって生じる、皮下軟部組織に及ぶ、紫色や栗色の皮膚の変色がある。表面の傷口は小さいが、皮下に空洞状にポケットができている。表皮に皮むけもみられ真菌による感染もみられた。食事は全粥、やわらか菜、栄養補助食品を提供していたが食欲不振がみられ、自力摂取は進まなかった。

食事形態

入院時

全粥150 g
やわらか菜1/2量
メイバランスArg
メイバランスミニ
〔総エネルギー / 蛋白質〕
1350kcal / 51.8g

栄養状態の推移

項目	2025年7月
Alb アルブミン	2.9
TP 総タンパク	6.3
Hb ヘモグロビン	9.4
食事摂取量 70%	摂取エネルギー / 蛋白質 945kcal / 36.2g
体重kg	29.5

当院の取り組み 症例紹介：栄養管理と褥瘡ケアの実際

経過・ケア写真

2026年1月



食事形態

現在

メイバランスミニ
メイバランスArg

総エネルギー / 蛋白質
400kcal / 17.5g

栄養状態の推移

項目	2026年1月
Alb アルブミン	2.7
TP 総タンパク	7.6
Hb ヘモグロビン	9.7
食事摂取量 95%	摂取エネルギー/蛋白質 380kcal / 16.6g
中心静脈栄養	エネルギー/蛋白質 820kcal / 30g
体重 kg	29.9

洗浄や表層的な処置だけでは治癒が難しかったため他院を受診し、デブリートメントによってポケットを切り開き、褥瘡の内腔を開放した。一時的に創部の縮小がみられたが、良性肉芽の形成は進まなかった。食事については固形物の摂取が進まず、栄養補助食品と点滴による補液のみとなり栄養面の改善は乏しかった。栄養状態の改善を図るためにCVPの埋め込み、高カロリー輸液による中心静脈栄養が開始となった。総カロリー数は減っているように見えるが、吸収の不安定な経口摂取から確実に身体に代謝される中心静脈栄養へ切り替えたことで、褥瘡部を治すためのエネルギーが局所にしっかり届くようになり縮小し始めている。家族からは褥瘡が治れば在宅で看たいという希望がある。